

流山とりだより

流山野鳥同好会

No.147

2024年4月10日



●ウグイス

庭のバードバスに来て水浴びをした後、ウメの木に移動ブルブルをして水を払い、さらに枝移りしたウグイスです。

2024.01.10 東初石

撮影：森岩 好明

残念ながら悪天候で中止となりましたが、今年最初の定例観察会は北2号公園に集合し、富士眺望の池を経て県道松戸野田線と江戸川の間の新川耕地一帯で鳥を見る予定でした。この地域は市野谷の森と共に、かつては流山野鳥同好会の重要なフィールドで、新年最初の観察会も例年ここでおこなっていました。

1月の観察会の予告のタイトルが「ケリを見よう」だったように、ここでの観察会の目玉となる鳥のひとつは、大型のチドリの仲間のケリです。鳴き声が「ケリ、ケリ、ケリ」とも聞こえるのでこの名前になったと言われています。田んぼに降りているときは見つけにくいのですが、飛び立つと翼の黒と白と灰褐色のコントラストが美しい鳥です。全国的

にもあまり多くは見られない鳥のようですが、新川耕地ではこれまで毎年のように観察でき、この秋から冬も私の観察では多いときで12羽の群れが見られました。去年は11月、12月に比較的良好に見られ、富士眺望の池にもうけられた小島に来ていることもありましたが、1月以降はさっぱり見かけなくなりました（本号「鳥だより」によれば菊池則男さんは1月にも観察しています）。かつては冬になると、やはり大型のチドリの仲間のタゲリが大量に渡来し、冬の観察会のもうひとつの目玉でした。私も20年以上前、初めて数十羽のタゲリの群れを見たときには驚いたのですが、近年はすっかり見られなくなりました。春や秋の渡りの季節に訪れていたチュウシャクシギやムナグロも、近年はきわめてまれになったようで残念です。



ケリ



富士眺望の池



六兵衛の渡し跡



黒と白と灰褐色



白が際立つ



タゲリ

<写真：森岩好明>

松戸野田線の江戸川側を道路と平行して流れる農業用水路には、小さな橋がいくつか架かっています。そこから水路の水面や岸辺、周辺の田んぼを見ると、サギ類、タシギやイソシギ、カルガモやコガモ、ハシビロガモなどのカモ類、セグロセキレイやハクセキレイ、それにカワセミをしばしば見ることができます。今年の冬はこの水路や周りの水田でコガモが100羽以上も集まっていることがありました。

松戸野田線の信号を渡った先の、江戸川の六兵衛の渡し跡に続く水路沿いも鳥の集まる観察ポイントで、冬季はツグミ類やシメなど、夏から秋にはコムドリがしばしば見られ、電柱にノスリやチョウゲンボウが止まっていることもよくある場所です。水田やその周りの藪にはアオジ、ホオジロ、ヒバリ、タヒバリ、カワラヒワ、キジなど、それから夏季にはオオヨシキリなどを見ることができます。この水路沿いの道を抜けて江戸川の土手にあがると、土手下の河川敷から江戸川、対岸の吉川市のゴルフ場が見渡せます。このあたりの江戸川の水面ではそれほど多くの鳥を見ることはないのですが、去年の暮れにはコウノトリが飛来しました。10年ほど前にはコハクチョウの群れが来たこともあり、ミサゴ、オオタカなどの猛禽類、コアジサシやセグロカモメなども見かけることがあります。何年か続けて冬季にホオジロガモが来ていたこともありました。川辺の藪や木立ではモズ、ホオジロなどをほぼ通年見ることができます。ベニマシコや渡りの途中のキビタキ、カッコウなどもかつてはしばしば見ることができましたが、藪が刈られたり木立が切られたりと環境の変化が激しいせい、そうした鳥たちは近年なかなか見られません。

巨大配送施設の建設にともなって作られた調整池のひとつである富士眺望の池は、水鳥の新しい観察地の一つです。今年の観察では一番多いのはコガモ、次がカルガモで、その他にはヒドリガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロが少数、カモ類以外ではオオバン、カワウ、アオサギ、コサギ、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイなどが見られました。隣接する配送施設の屋上にはチョウゲンボウやノスリがときどき止まっていて、カラスがそれらにモビングする様子も見られます。

大規模な配送施設の建設や江戸川の河川沿いの工事、休耕田の増加などで、以前と比べると見られる鳥の種類も数も少なくなりましたが、ときに思わぬ鳥や生き物に出会うこともあって、今も週に一度は犬の散歩をかねてこのフィールドを訪ねています。たくさんのタゲリが舞い飛ぶ姿を、ぜひまた（一度と言わず何度でも）見たいものです。

観察会から

● 1月21日（第296回）定例観察会（ケリを見よう！）

新川耕地観察会は雨のため、中止となりました。物流倉庫が立ち並ぶ新川耕地に、少数のケリが渡ってきます。やさしく見守っていきましょう。

● 2月会員限定 手賀沼船上観察会（カモ、カモン！）

2024年2月4日

相馬利雄



迫力のコブハクチョウ



見送りありがとう

<ホームページの報告記事の補足です。>

手賀沼船上観察会も終盤、船が近づくと沿岸の低い樹木から、猛禽類が飛び出したのを覚えていますか？ 船長はオオタカか、ハヤブサか？とのことでした。ノスリやトビも考えられますが・・・ほんの一瞬、俊敏な後ろ姿を見たのですが、決め手に欠きました。鳥合わせの時はオオタカの可能性があります、と判断しましたね。

さて、丁度その日の夜、NHKの「ダーウィンが来た！」で、(摩天楼のハヤブサ)の放送がありました。ニューヨークのエンパイアなどの高層ビルで生活するハヤブサの特集です。夜間、高層ビルの上空を飛ぶ渡り鳥を、「待ち伏せ狩り」をするという画期的な番組でした。ここで押さえておきたいのは、ハヤブサの狩りは空中戦法ということです。高い所で待ち伏せし、高速飛行で獲物を掴み取ります。

さてさて、次はオオタカです。オオタカは鷹狩りで使用される飛行の名手。大河ドラマでも緊迫した場面では、姿や「ケッ、ケッ、ケッ」の鋭い鳴き声が使われます。そのオオタカの戦法は、帆翔しながら獲物を見つけ急降下して獲物を掴み取る方法と、林縁など樹木に隠れていて獲物を見つけると飛び出す方法があります。

最近、私が観察している松伏の「緑の丘公園」にも、毎日のようにオオタカが現れます。このオオタカの戦法は、池の中央の「ひょうたん島」や点在する島の低い樹木に隠れ、狩りのチャンスを伺うことです。移動も低く滑空して、忍者のように身を潜めます。優れた飛行技術で急発進、急旋回、狙った獲物をとことん追い回し捕えます。サギやカモたちにとっては、生死をかけたとんでもない池でもあります。

というわけで、手賀沼で一瞬見た猛禽類も、低い樹木に隠れて狩りをするとなると、松伏型の忍者戦法のオオタカかなと一層思うのでした。

オオタカの話で終わってしまいましたね。流山市の「市の鳥」でもあるオオタカとなると、つつい入れ込んでしまいます。ほどほどにお付き合いください。



余裕のセグロカモメ



この杭がお好きミサゴ



羽白なハジロカイツブリ

<編集より>

ミサゴはお気に入りの杭に止まっていた。カモたちは、のんびりとブカリブカリ。コブハクチョウが水面を走りだして飛ぶ姿は、迫力ありましたね。

◆観察した鳥

カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ヒドリガモ、オカヨシガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オオバン、セグロカモメ、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（鳥合わせ後 シジウカラ、オナガガモ）

以上 33種

◆参加者

伊東 孝、遠藤悦子、川上和雄、菊池和子、栗原三八子、斉藤久寿、斉藤浩美、相馬利雄、相馬由佳、服部洋之、服部雅子、増田久美子、東原 聡、前場公代、吉田令子

以上 15人



「ボートセンター小池」にて

<写真：東原 聡>

観察会から

● 2月（第297回）定例観察会

大畔の森・水鳥の池（流山にこんな森があったの？） 2024年2月18日
相馬利雄



男ならぬ「ノスリの背中」



右下丸が、30年前の森の中心地点

初石駅から「大畔の森」へ向かいました。とても綺麗に整備されていて観察したい森です。「西初石 小鳥の森」側から森へ入り階段を降りると、すぐに湿地が広がります。周辺から湧き水が染み出しているのでしょうか。水量が少ないためか沼地化しています。

ふと思い出したのは、「おおたかの森（市野谷の森）」が開発される前にあった湧き水の池です。もう30年も前のことですが、樹木に囲まれたバドミントンのコートほどの小さな池は、枯れることなく水を張っていました。「牛飼い沢の池」と呼ばれ、坂川の源流の池でした。場所は現在の「水鳥の池」付近だったように思います。広大な森に囲まれたその池は、ひっそりと緑の中に隠されていました。

突然、「ノスリがいるよ」の声。なんと湿地中央の樹木の横枝に、背中を向けたノスリがいます。普通なら警戒して飛んでしまうような距離に鎮座しています。すぐさまスコープをセット。全員が観察することができ、その後ゆっくりと飛び去っていきました。ありがとうノスリ君。

「大畔の森」から「おおたかの森」へ向かいます。東近隣公園として3月上旬オープンとのこと、林縁から見える遊歩道がきれいに整備されていました。次回は遊歩道から観察しましょう。

ほどなく森全体を案内した看板のところに到着。ここで「おおたかの森」の30年前 (before) と、現在(after) の航空写真を紹介しました。30年前の森は、現在の2倍ありました。現地点はかつての森の中心地点だったのです。つくばTXの沿線開発に伴い、1992年に市野谷の森のオオタカの営巣が、千葉県初として公表されました。種の保存法の希少種として保護のシンボルとなり、生態調査や保護活動を経て現在の森が残されたのです。「市の鳥」がオオタカであったり、「おおたかの森駅」であったり、オオタカの名称が流山市と深く関わっている由縁はここからきているのです。そのような半分と化した森で、オオタカは世代を継ぎ、強くしぶとく生きています。

最後は、「水鳥の池」へ向かいました。この池は2000年ころ、開発で伐採された森の調整池として作られた人口の池です。雨水を溜めて坂川に放流するため、またミティゲーション手法という段階的に管理する方法が採用されています。

この池で2009年、内陸では珍しいセイタカシギが確認されていました。昨年にはアメリカコガモ、ヨシガモなども観察されています。常時キジがいて駅から近く、バードウォッチング入門には最適の観察地です。そうそう、鳥合わせの時、カワセミがきれいでしたね。光輝くコバルトブルーは、どれだけの人を惹きつけたことか。飛ぶ宝石とは良く言ったものです。そう言う私も、はまった一人ですが・・・

<編集より>

はい。大畔の森・水鳥の池はいかがでしたか。今回はノスリ君、カワセミ夫人（♀）に感謝です。好天気にもめぐまれて楽しかったですね。

<会員以外のみなさん>

本日はありがとうございました。皆さんが優しく接していただき、とても嬉しかったです。流山にもたくさん



ホオジロ（メス）



何度みても惹きつけられます



隠れるようにキジ（メス）

の鳥がいることがわかり驚きました。最後にカワセミをみることができ素晴らしかったです。ありがとうございました。（勝又菜々子さん）

初参加です。ノスリを見て感動しました。鳥をみつける難しさを実感。野鳥チェックリスト結果にビックリ、こんなには探せませんでした。好天気で気持ちの良い探鳥でした。また参加したいと思います。（少し勉強して）（横内正行さん）

◆観察した鳥

カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、ノスリ、オカヨシガモ、コガモ、カルガモ、キジ、オオバン、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス

合計 28 種

◆参加者

伊東 孝、遠藤悦子、大渡 修、川上和雄、菊池和子、栗原三八子、近藤浄一、菅野文夫、鈴木淑子、相馬利雄、塚本清美、東原 聡、服部洋之、服部雅子、増田久美子、森田洋一、吉田令子

（会員以外 横内正行、牛山直美、牛山閃里（小1）、勝又菜々子、吉田まり）

以上 会員 17 人+会員以外 5 人= 22 人



「水鳥の池」にて

<写真：東原 聡>

観察会から

● 3月会員限定 江戸川河口観察会（スズガモわんさか！）

2024年3月10日

相馬利雄



河津桜にメジロ（東原）



蜜吸うヒヨドリ（東原）

妙典駅から線路沿いを戻るように10分余り歩くと、江戸川に到着します。高台から見渡す水面（みなも）は、晴れ渡る空の下でキラキラと輝いていました。足元では河津桜が咲き、ヒヨドリやメジロが蜜を吸いに飛び交っています。何とも言えない春の気配です。

ここは当会では初めての観察地。流山では見られない鳥を求め企画しました。その名も「スズガモわんさか！」江戸川の河口付近に集結するカモたちがターゲットです。さてどんな鳥たちに会えますでしょうか？

淡水と海水が混じり合う汽水域のため、カモによって好みの場所があるようです。キンクロハジロは東西線の鉄橋より上流にいます。海水を好まないのでしょう。下流に進むにつれてオナガガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、そしてスズガモといった出番です。数が多いのはホシハジロにスズガモ。群れてはいますが、「ちょっとわんさか」程度です。北への渡りが始まっているのでしょうか。あるいはもっと下流の沿岸に集結しているのかもしれませんが。

白黒モノトーンの羽衣をまとい、赤いクチバシ・赤い足の目立ちたがり屋は、ミヤコドリ。存在感ハンパない姿は、私たちが得した気分させてくれます。潮の引いた砂浜のあちこちに点々と見られました。新公園「ぴあぱーく妙典」付近では、10羽ほど砂浜でくつろぐ姿をゆっくりと観察することができました。その中にウミアイサが1羽、ミヤコドリに負けじと羽繕いをしていました。水面では直ぐに潜水してしまう困りものも、陸の上ではバッチリと双眼鏡に納まっていた。美しさでは、ミヤコドリにかなわないかな（失礼ごめんなさい）。

11時ころには早弁当を食べ、往復の帰路に着きました。ここで遭遇したのが、ハジロカイツリりの集団（13羽）です。冬羽や夏羽に移行中など個体差があって目移りしました。仲間同士でまともって北国へ帰るのも、もうすぐのようです。後ろ髪を引かれつつのお別れでした。

河津桜が咲く出発地点まで戻り、鳥合わせです。今回は24種を観察することができました。流



スズガモわんさか！（森岩）



スズガモ（オス）（森岩）



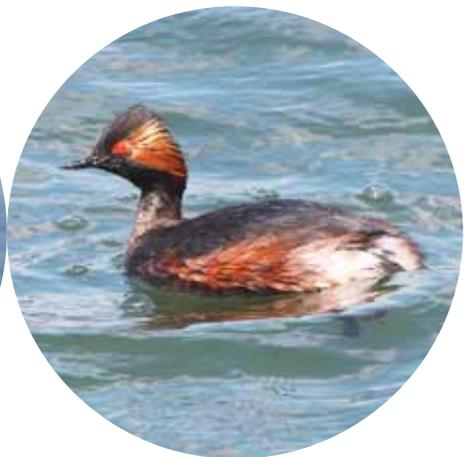
スズガモ（メス）（森岩）



ミヤコドリ（森岩）



ハジロカイツブリ（冬羽）（森岩）



ハジロカイツブリ（夏羽）（森岩）

※注：ハジロカイツブリは雌雄同色で、この時期は冬羽の個体と夏羽へ移行中または夏羽の個体が見られます。

山では見られない鳥、スズガモ、ミヤコドリ、ウミアイサはいかがでしたか。「チェックリスト」にも載っていないほど収穫ありの一日でしたね。改訂版をつくらなきゃいけないな～

<編集より>

う～む。来期は2月が良いかな？ 温暖化でカモの渡りが早まっているのかもしれませんが。そして何ととっても、新公園「びあば一く妙典」のトイレが新品綺麗で安心安全。調度良い観察地になりましたね。「スズガモわんさか！」、結構良いカモ・・・





ウミアイサ (メス) (東原)



ウミアイサ (メス) (東原)



ユリカモメ (森岩)

◆観察した鳥

ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ミサゴ、
ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、
オオバン、セグロカモメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、メジロ、
カシラダカ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ウミアイサ、ミヤコドリ、
ユリカモメ

合計 24 種

◆参加者

伊東 孝、菅野文夫、鈴木淑子、相馬利雄、相馬由佳、東原 聡、服部洋之、
森岩好明

以上 会員 8 人



江戸川河口にて (東原)

観察会から

● 3月（第298回）定例観察会 利根運河・理窓公園（カワセミ バンザイ！）

2024年3月24日

森田 洋一

前日は、雨が激しく降り、冬のような寒空が私たちの住む世界を覆っていた。観察会当日、曇り空の中に、太陽の光がみえる。気候も春の到来を想起させるような散歩日和。利根運河から理窓公園に向かう道は、自転車の到来が多く、何をそんなに先を急ぐのか、野鳥観察組には、ある意味不思議な光景であった。

合わせたスコープの先には、普段みることのできる野鳥、ややレアな野鳥を垣間見ることができる。もちろん、さえずりの一瞬からも、生の瞬間を感じることができる。野鳥をよく知っているベテランの方でも、まったく



ひょうたん池

知らない初心者にも、うつる映像は同じであるし、聴こえる自然の音色も同じである。

毎日通る散歩道、たまに訪れる遊歩道、誰もが同じ道を歩いている。川沿いを特に目的を持たずに歩いても、自然の世界は、訪れた人たちの視界を広げていく。

公園の散歩道、学校も休みであるため、人気をあまり感じない。それでも、自然界の動植物は、たくましく生を営んでいる。水面に反射する草木は、いつの時代も変わらず淡々とその存在を示している。確かに、いつもみている、これまでもみてきた、それでも、訪れる度に、何かが違う気がする。心の成長なのか、かすかな自然界の変化なのか、それは、よくわからない。

月曜日の午前中、非常に憂鬱に感じる事が時々あるかもしれない。しかし、時をさかのぼることもできない。そう、今、この瞬間を充実させるしかない。

といったようなことを考えながら、参加したみなさんの安全第一に、列の最後尾を歩いていました。自然の中を軽く散歩するような気持ちで、お気軽にご参加頂ければ幸いです。お待ちしております。

<編集より>

高知では桜の開花宣言ができました。桜が咲くと一気に春。冬鳥たちの北帰行へのカウントダウンは秒読みです。代わりに気の早いツバメが新川耕地に初見参。時は流れますね。

<会員以外のみなさんより>

お天気も鳥見到ちょうど良い薄曇りでラッキーでした。自分ではベニマシコもアカハラもシロハラもオカヨシガモもわからないので、教えていただけて嬉しかったです。スコープで見ると細かい所までわかってすてきでした。企画をして案内して下さった方々、ありがとうございました。

（鈴木 瑞枝さん）

初めて参加させていただきました。あっという間に思える楽しい時間でした。ありがとうございます。またぜひ継続して、季節ごとの楽しみを感じたいです。よろしくお願いします。

（太田桐 門史子さん）



理窓公園地図



アカハラ



白鳥の池

◆観察した鳥

カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ノスリ、ヒドリガモ、
 オカヨシガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、キジ、バン、オオバン、
 キジバト、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、モズ、アカハラ、
 シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、
 アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、
 ハシボソガラス、ハシブトガラス

(鳥合わせ後、セグロセキレイ、カワウを追加します)

合計 36 + 2 = 38 種

◆参加者

岩淵恒彦、落合 聡、川上和雄、菊池和子、菅野文夫、鈴木淑子、相馬利雄、
 塚本清美、東原 聡、服部洋之、服部雅子、森岩好明、矢野平真人、
 吉田令子、若林幹夫、森田洋一、(会員以外 阿部 勉、鈴木瑞枝、
 安井律子、太田桐門史子、藤波京子、松本道男)

以上 会員 16 人+会員以外 6 人 = 22 人



理窓公園にて

<写真：東原 聡>

◆鳥だより——フィールドノート拝見

この冬の流山と近隣地区の観察記録です。私の自宅の周辺ではツグミが多い冬でしたが、みなさんのフィールドではどんな鳥が見られたでしょうか。

新川耕地、江戸川地区

12月30日…コウノトリ (1)、カワウ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ケリ (6)、カワセミ

1月 1日…ノスリ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ

1月 4日…コガモ (100+)、カルガモ、ヒドリガモ

1月 6日…ミサゴ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、アオサギ、カワウ

1月 9日…トビ、ノスリ、チョウゲンボウ

1月13日…ケリ

3月22日…ツバメ

3月23日…ツバメ、シジュウカラ、ツグミ、タシギ、コガモ、カルガモ、カワウ、ノスリ、オオバン、セグロセキレイ、ハクセキレイ、アオサギ

若林幹夫
若林幹夫
若林幹夫
若林幹夫
森岩好明
菊池則男
友水清之
若林幹夫

野々下・古間木・総合運動公園地区

2月 9日…ヤマガラ

3月 3日…ミヤマホオジロ

菊池則男
菊池則男

南流山地区

3月12日…イソヒヨドリの声

相馬利雄

市野谷・おおたかの森・大畔地区

12月26日…アカゲラ

1月19日…シジュウカラ

1月20日…エナガの群れ

2月 2日…イソヒヨドリ♂

2月10日…アカゲラ

2月13日…ホオジロ

2月29日…アカゲラ

菅野文夫
菅野文夫
鈴木淑子
菊池和子
菅野文夫
菅野文夫
菅野文夫

新川耕地・江戸川地区



ノスリ 2024.01.09 森岩



チョウゲンボウ 2024.01.09 森岩



ケリ 2024.01.13 菊池

野々下・古間木・総合運動公園地区



ヤマガラ 2024.02.09 菊池



ジョウビタキ♀ 2024.01.06 森岩



ウグイス 2024.01.09 森岩

2月26日…メジロ
2月27日…ジョウビタキ♀、メジロ
2月29日…メジロ
3月6日…カワセミ
3月11日…アカハラ

森岩好明
森岩好明
森岩好明
菊池則男
菊池則男

柏の葉公園地区

1月3日…シロハラ
1月31日…ルリビタキ、ジョウビタキ♀、シロハラ、ツグミ
2月1日…ハクセキレイ、シロハラ、ツグミ、アトリ、カワラヒワ
1月9日…ツグミ、シメ

鈴木淑子
森岩好明
森岩好明
森岩好明

手賀沼地区

3月6日…ハヤブサ、チュウビ

菊池則男

★「鳥だより」をお寄せください。

【通勤、買い物途中などで見かけた鳥の身近な観察情報、初認情報などをお待ちしています。
【連絡先】若林幹夫 〒270-0127 流山市富士見台1-367-49 FAX:04-7154-6339
e-mail:mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp
次号の「鳥だより」は6月20日までをお願いします。

会員のみなさんは普段どんなフィールドで、どんな風に鳥を見ているのか、市外のフィールドの紹介や鳥見の旅の報告、鳥にまつわる思い出、図鑑や図書の紹介など、会員のみなさんからの情報・原稿をお寄せください。数行の短い投稿や質問でもOKです。もちろん写真も大歓迎です。

● 情報・原稿は上記、若林幹夫まで随時お送りください。
ホームページと会報の連携も今後考えていきます。よろしくお願いたします。



イソヒヨドリ 2024.02.08 菊池



ウグイス 2024.02.09 菊池



メジロ 2024.02.24 森岩

柏の葉公園地区



メジロ 2024.02.29 森岩



シロハラ 2024.01.31 森岩



シメ 2024.02.09 森岩

◆ 今後の行事予定

● 4月（第299回）定例観察会

日時：4月21日（第3日曜日） 担当：森田
場所：野々下水辺公園・総合運動公園
集合：豊四季駅 南口階段下 午前10時（雨天中止）※午前9時ではありませんのでご注意ください。
解散：13時ころ 持物：弁当なし

● 4月21日定例観察後、引き続き「第二回バーベキュー親睦会」を開催いたします。

場所：LOCAL BBQ 流山 <https://local-bbq.com/>（解散後、徒歩5分）
流山市野々下1丁目40番地1 総合運動公園内 南側駐車場付近

時間：13時30分～16時30分（3時間）

集合：①観察会に参加する方・・・引き続きご参加ください。

②直行する方・・・現地 午後13:30

参加費：大人@3,750円（税込み）子ども@2,200円（税込み）。

※アルコール代は、事前申告制で別途費用をいただきます。

持物：手ぶらでOKです。

ただし、食材・飲み物等、持参したいものがあれば持ち込みできます。

定員：20名

申込：HPの会員専用ページの申し込みフォームからお願いいたします。

※準備の関係上、2週間前の4月7日までに申し込みをいただくと助かります。

新会員のみなさん、是非ご参加ください。

定例観察会では野鳥に集中していて会話も抑え気味ですが、年1回の親睦会にて思う存分鳥談義などに花を咲かせましょう！何か気になる点等ございましたら、事務局までお気軽にご連絡ください！！

詳細はホームページでご案内いたします。



● 会員限定 葛西臨海公園（見るぞクロツラヘラサギ！） 「注：Web会員は参加できません」

日時：5月12日（第2日曜日）

担当：菅野

場所：葛西臨海公園

集合：葛西臨海公園駅 改札を出て駅前広場

午前9時（雨天中止）

解散：13時ころ 持物：弁当持参

● 6月、7月、8月の観察会はお休みとなります

● 9月以降の観察会は、「流山とりだより7月号」及び、ホームページでお知らせします。

★令和6年度分の会費納入についてのお願い★

未納の方は4月中に、年会費2,000円を払込票にて下記口座へお振込み下さい。

（ただし、家族会員は無料です。）

郵便振替口座：00130-3-608241 流山野鳥同好会

◆ 新入会員の紹介

勝又菜々子さん、太田桐門史子さん よろしくお祈りします。

◆ 令和6年3月31日現在の会員数

単体会員41名+家族会員18名=合計59名

流山野鳥同好会会報 No. 147 2024年4月10日発行（年4回発行1月・4月・7月・10月）

発行人 相馬 利雄

連絡先 〒270-0163 千葉県流山市南流山6-27-11

TEL・FAX：04-7159-0972

郵便為替口座 加入者名「流山野鳥同好会」口座番号：00130-3-608241

流山市民活動推進センター【団体登録番号】04-13